

## 通級による指導の充実に関する研究

### —特別支援教育コーディネーターを中心とした定期的な情報交換会を通して—

特別支援教育コーディネーターを中心とした定期的な情報交換会を通して、通級による指導内容を通常の学級での学習や生活につなげる効果的な校内体制の在り方についての研究を行った。実践では、情報交換会を各校の年間計画に位置付け、計画的に通級による指導担当者と通常の学級担任とが連携を図ることができるシステムの構築につなげることができた。また、情報共有する内容を焦点化することで、質の高い情報共有や情報交換につなげることができた。今後も通級による指導を含めた特別支援教育の充実に向けて研究を進めていきたい。

<検索用キーワード> 特別支援教育コーディネーター 通級による指導 通常の学級 連携  
情報交換会 年間スケジュールモデル 連絡票 校内体制

#### 研究協議会委員

|   |                         |
|---|-------------------------|
| 扶桑町立山名小学校教諭                             | 滝 茂己（令和3，4年度）           |
| みよし市立三好丘小学校教諭                           | 小澤 浩祐（令和3年度）            |
| みよし市立三好丘小学校教諭                           | 長谷川洋子（令和4年度）            |
| 知多市立八幡中学校教諭                             | 橋本 良太（令和3，4年度）          |
| 愛知県立三好特別支援学校教諭                          | 内田 紀子（令和3，4年度）          |
| 愛知県立一宮特別支援学校教諭                          | 谷本 裕之（令和3，4年度）          |
| 愛知県立大府特別支援学校教諭                          | 真野 敏彦（令和3，4年度）          |
| 総合教育センター研究指導主事                          | 松井 亮（令和2年度）             |
| 総合教育センター研究指導主事                          | 猪狩 雄一（令和3，4年度）          |
| 総合教育センター特別支援教育相談研究室長（現愛知県立にしお特別支援学校副校長） | 倉知 利勝（令和2，3年度）          |
| 総合教育センター研究指導主事（現蒲郡市立三谷中学校教諭）            | 稲吉 育美（令和2，3年度）          |
| 総合教育センター特別支援教育相談研究室長                    | 津田 博史（令和2年度主務者，令和3，4年度） |
| 総合教育センター研究指導主事                          | 荒井 麻里（令和2，3，4年度）        |
| 総合教育センター研究指導主事                          | 柴田 朋宏（令和3，4年度）          |
| 総合教育センター研究指導主事                          | 岡本 祐輔（令和4年度）            |
| 総合教育センター研究指導主事                          | 西島 謙一（令和4年度）            |
| 総合教育センター研究指導主事                          | 岡庭 智美（令和2年度，令和3，4年度主務者） |

### 1 はじめに

特別支援教育を巡る状況の変化を踏まえ、インクルーシブ教育システムの理念を構築し、特別支援教育を進展させていくためには、一人一人の教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できるように連続性のある多様な学びの場の一層の充実や整備を着実に進めていくことが求められている。

通級による指導は、学校教育法施行規則第140条及び第141条に基づき、子どもの自立を目指し、障

害による困難を改善・克服するため、一人一人の状態に応じた指導を行う指導形態である。通級による指導を利用している児童生徒は、ほとんどの時間を在籍学級で指導を受けているので、通級による指導担当者と通常の学級担任との連携は欠かせない。そのための相互理解の機会を適切に確保する必要があるとともに、指導内容の総合的な調整や臨機応変な支援なども適時行うことが必要である。

文部科学省の調査によると、義務教育段階の児童生徒数は減少する一方、通常の学級に在籍する特別な支援が必要な児童生徒の割合は年々増加しており、通常の学級での授業を受けつつ、障害による学習や生活上の困難を主体的に改善・克服するために受ける「通級による指導」のニーズが高まっていると考えられる。

資料1からも通級による指導を受ける児童生徒数は、平成28年度から令和2年度までの5年間で約1.7倍に増加し、現在も増加傾向であることが分かる。また、愛知県でも、資料2のように通級による指導を受ける児童生徒数が、平成28年度から令和2年度までの5年間で約1.6倍となっており、現在も増加傾向であることが分かる。

このような状況から、「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有

識者会議の報告」(令和3年1月)では、特別支援教育に関する多様な学びの場の連続性の観点から、校長等の管理職がリーダーシップを発揮して学校全体としてカリキュラム・マネジメントを行い、教職員が適切に役割を分担しつつ、相互に連携し、障害のある児童生徒への指導・支援の質の向上を図っていく必要があると示されている。さらに、小・中学校における障害のある子どもの学びの充実についても示されており、通級による指導の充実が求められている。また、「障害者活躍推進プラン」(平成31年1月)でも、通級による指導を含む特別支援教育の充実を図り、児童生徒の学びの質の向上につなげていくことと示されている。そして、「障害に応じた通級による指導の手引 解説とQ&A (改訂第3版)」

(平成30年8月)でも、通級による指導の実施に当たっては、通級による指導担当者が、児童生徒の在籍学級の担任との間で定期的な情報交換を行ったり、助言を行ったりするなど、両者の連携協力が図られるよう十分配慮することが重要であると記述されている。さらに、第2期愛知県特別支援教育推進計画(愛知・つながりプラン2023)でも、教育諸条件の整備の中で、通級の指導による充実について示されている。

また、今まで通級による指導に関する研究も取り組まれている。独立行政法人国立特別支援教育総合研究所の特別支援教育における教育課程に関する総合的研究「通常の学級と通級による指導の学びの連続性に焦点を当てて」(平成28年度～平成29年度基幹研究)では、通常の学級担任と通級による指導担当者が学習の進捗状況等について情報共有しながら連携・協力を深めていかなければならないと校内体制について提言がまとめられている。また、愛知県の発達障害等支援拠点校研究(平成25年度～平成30年度)では、通級による指導を充実させるだけでなく、通級による指導担当者と通常の学級担任が連携し、通常の学級における支援・指導を充実させていくことが課題であるとしてまとめられている。

これらのことから、各学校において、通級による指導の効果を上げるためにも、通級による指導担当

**【資料1 通級による指導を受けている児童生徒の推移】**  
文部科学省 通級による指導実施状況調査結果より

|              | H28    | H29     | H30     | R1      | R2      |
|--------------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 児童生徒数<br>(人) | 98,311 | 108,946 | 123,095 | 134,185 | 164,697 |

平成30年度から高等学校における通級による指導を受けている生徒も含む

**【資料2 愛知県で通級による指導を受けている児童生徒数】**  
愛知県教育委員会 愛知の特別支援教育より

|              | H28   | H29   | H30   | R1    | R2    | R3    | R4    |
|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 児童生徒数<br>(人) | 4,345 | 4,914 | 5,842 | 6,446 | 6,996 | 7,677 | 8,401 |

者と通常の学級担任との間での連携をより強化していくことが必要であると考え。そこで、特別支援教育に係る学校内の関係者や外部の関係機関との連絡調整役であり、保護者に対する相談窓口、担任への支援、校内委員会の運営や推進役といった役割を担っている、特別支援教育コーディネーターを中心とした校内体制を構築することで、通常の学級担任と通級による指導担当者とは連携して、通級による指導の内容を通常の学級での学習や生活につなげ、通級による指導の充実を図ることができると考える。また、よりよい校内体制の構築をすることで、障害の特性等に関する理解と指導方法を工夫できる力の育成にもつながっていくと考える。

## 2 研究の目的

通級による指導内容を通常の学級での学習や生活につなげる効果的な校内体制の在り方について研究し、通級による指導の充実を図る。

## 3 研究の方法

研究協力校（小学校2校，中学校1校，特別支援学校3校）の代表委員と所員による共同研究で行う。

### (1) 1年次（令和2年度）

以下の実践を基に、資料3のように研究を構想した。

#### ア アンケートの実施

通級による指導担当者及び通常の学級担任を対象としたアンケートを実施し、小・中学校の通級による指導についての現状と課題を整理し、より効果的な校内体制の在り方について検討した。

#### イ 情報交換を実施するためのツールの作成

通級による指導担当者と通常の学級担任が連携を図るための具体的な手だてとして、以下の三つのツールを作成した。

|                                |  |
|--------------------------------|--|
| 年間スケジュールモデル                    | 年間計画に「情報交換会」を位置付け、各立場の役割を明記したもの。                               |
| 情報交換実施マニュアル①<br>情報交換会内容及び方法シート | 情報交換会での特別支援教育コーディネーターの役割を明記した、進行の手順表。                          |
| 情報交換実施マニュアル②<br>連絡票            | 学びの連続性を意識し、対象児童生徒の実態や目標、具体的な支援、目標に対する評価などの情報を一つのシートにまとめて表したもの。 |

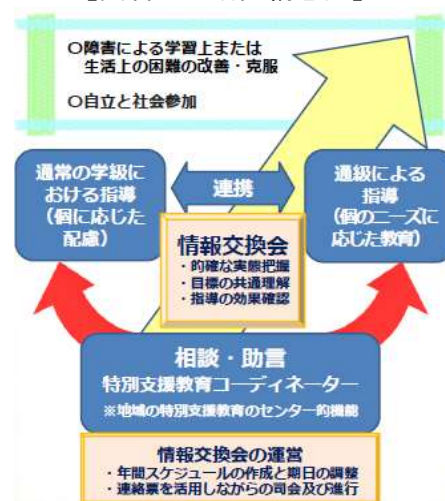
#### ウ 特別支援学校との連携

多様化する児童生徒の適切な支援を行っていくため、特別支援学校のセンター的機能の活用を取り入れた。

### (2) 2・3年次（令和3・4年度）

校種や通級による指導の形態が異なる三つの小・中学校において、小・中学校と特別支援学校の研究協力校代表委員が連携して、「情報交換会」を定期的実施し、特別支援教育コーディネーターを中心としたよりよい連携ができる校内体制の在り方についての実践と検証を行った。その際、年間スケジュールモデル、情報交換会実施マニュアル（情報交換内容及び方法シート・連絡票）を活用して情報共有や情報交換する時期や内容をより明確にした。また、これらのツールを各校の実態に合わせて効果的な連携ができるように工夫しながら実践を行った。

【資料3 研究構想図】



## 4 研究の内容

### (1) アンケート調査の実施と分析

小・中学校の通級による指導での通常の学級担任と通級による指導担当者が日頃行っている連携についての実態を知り、その課題を整理するため、通常の学級担任（10年経験者）196名、通級による指導の担当初心者97名を対象にアンケートを実施した。

「連携は十分であると感じているか」(資料4)の質問に対して、通常の学級担任に比べ、通級による指導担当者は、「十分であると感じている」の割合が低く、通常の学級担任と通級による指導担当者との「連携」に対する感じ方に違いがあると考えられた。

また、「連携をどのように行っているか」(資料5)の質問に対して、連携の方法は、約半数が指導の記録による情報共有となっており、定期的に情報交換会を実施している割合は低くなっていた。

そして、「連携をすることの課題は何であると感じているか」(資料6)の質問に対して、「時間の設定」であると考えている割合が高かった。また、通級による指導担当者は、通常の学級担任に比べ、課題や目標の共有化が不十分と感じている割合が高くなった。

さらに、通級による指導担当者に対して行った「通級による指導を担当して困ることや難しいことは何か」(資料7)の質問に対して、実態把握や指導内容の選定、評価・効果について、不安を抱えている可能性があると考えられる。

以上の結果より、現在、通級による指導の内容についての情報伝達が連携の中心であり、通級による指導担当者は、連携することの必要性を感じているものの、情報共有や情報交換をするために時間や場の設定が難しい状況にあると考えられる。そして、指導の記録や個別の教育支援計画などを用いて連携を図っているものの、対象児童生徒の課題や目標などの共有化が不十分である現状から、情報共有をする内容や方法について課題があると考えられる。

そこで、より通級による指導の充実を図るためには、特別支援教育コーディネーターが連絡調整役を果たし、目標・指導内容の妥当性、指導の効果などについて通級による指導担当者と通常の学級担任が一緒になって確認したり、話し合ったりする場を設定することが必要であると考えられる。

【資料4 連携は十分であると感じているか】

|                              | 通常の学級担任 | 通級による指導の担当者 |
|------------------------------|---------|-------------|
| ① 十分であると感じている                | 43%     | 11%         |
| ② 十分であるが、もっと連携の充実を図りたいと感じている | 28%     | 31%         |
| ③ 足りないと感じている                 | 13%     | 25%         |
| ④ 足りないが現状としては難しいと感じている       | 16%     | 33%         |

【資料5 連携をどのように行っているか】

|                  | 通常の学級担任 | 通級による指導の担当者 |
|------------------|---------|-------------|
| ① 指導の記録          | 48%     | 50%         |
| ② 定期的な情報交換会      | 27%     | 11%         |
| ③ 個別の教育支援計画・指導計画 | 19%     | 21%         |
| ④ 電話やメール         | 1%      | 2%          |
| ⑤ その他            | 5%      | 16%         |

【資料6 連携をすることの課題は何であると感じているか】

|                           | 通常の学級担任 | 通級による指導の担当者 |
|---------------------------|---------|-------------|
| ① 通常の学級担任と情報交換をする時間がない    | 46%     | 48%         |
| ② 対象児童生徒の課題や目標の共有化ができていない | 12%     | 24%         |
| ③ 通常の学級担任と情報交換をする場がない     | 10%     | 11%         |
| ④ 情報交換する具体的な内容が明確にされていない  | 8%      | 7%          |
| ⑤ 特にない                    | 18%     | 7%          |
| ⑥ その他                     | 6%      | 3%          |

【資料7 通級による指導を担当して困ることや難しいことは何か】

|             | 通級による指導担当者 |
|-------------|------------|
| ① 実態把握・目標設定 | 23%        |
| ② 指導内容の選定   | 32%        |
| ③ 評価・効果     | 24%        |
| ④ 担任との連携    | 13%        |
| ⑤ 特にない      | 1%         |
| ⑥ その他       | 7%         |

## (2) 情報交換を実施するためのツールの作成と工夫

アンケートによる通級による指導担当者と通常の学級担任との連携に関する実態から得られた課題を基に「年間スケジュールモデル」「情報交換実施マニュアル（情報交換会内容及び方法シート・連絡票）」を次のように工夫した。

### ア 年間スケジュールモデル（資料 8）

各学校ではさまざまな業務があり、急に情報交換会を実施する日程を調整することは難しい。そこで、あらかじめ実施する日程を年間計画に位置付けることで、計画的かつ定期的に情報共有や情報交換をする場を設定しやすくなると考えた。そこで、情報交換会を年間計画に位置付け、計画的に通級による指導担当者と通常の学級担任とが連携を図ることができるようにした。年間スケジュールモデルは、1年間の流れの中で、実施時期や目的などについて、PDCAサイクルを意識してまとめたものである。また、各立場の教師の役割を明記することで、互いの役割を把握できるように工夫した。

令和3・4年度の各小・中学校での実践では、年間スケジュールモデルを基に、各学校の年間計画に情報交換会を位置付け、情報交換会を実施する時期を調整し、他の会議との連携を図ったり、個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成時期と関連させたりするなど、各学校の実情に応じた工夫を加えながら、実践を行った。

### イ 情報交換実施マニュアル

#### (7) 情報交換内容及び方法シート（資料 9）

特別支援教育コーディネーターが、どの学校でも効率的かつ効果的な情報交換会が実施できるようにするためのマニュアルとして、「情報交換内容及び方法シート」を作成した。このシートには、各情報交換会で話題にする内容を記載して実施する目的や内容を明確化したり、情報交換会での特別支援教育コーディネーターの役割を示したりした。情報共有や情報交換の視点を明確にし、短時間で効果的な情報交換をすることができるようにした。

令和3・4年度の各小・中学校での実践では、年間を通して実践していく中で、司会の進行を工夫したり、情報共有や情報交換の内容の要点を絞ったりするなど、各学校の実情に応じた工夫を加えながら、実践を行った。

【資料 8 年間スケジュールモデル】

| 時期                      | 内容  | 通級による指導担当者   | 通常の学級担任  | 特別支援教育コーディネーター   |
|-------------------------|---|--|--|--|
| 実施把握期<br>3月<br>4月<br>5月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●引き継ぎ資料の整理</li> <li>●個別の教育支援計画の作成</li> <li>●個別の指導計画の作成</li> </ul> <p>※対象児童生徒や保護者のニーズも踏まえて、目標を設定する。<br/>※目標に合わせて指導すべき課題を選択する。</p>     | <ul style="list-style-type: none"> <li>○引き継ぎ資料作成</li> <li>○前年度の引き継ぎ資料確認</li> <li>○通常の学級の授業参観</li> <li>○通常の学級担任からの情報収集</li> <li>○対象児童生徒、保護者との面談</li> <li>○通級指導教室における行動観察</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○引き継ぎ資料作成</li> <li>○前年度の引き継ぎ資料確認</li> <li>○通常の学級における実態把握</li> <li>○通級による指導担当者への情報提供</li> <li>○対象児童生徒、保護者との面談</li> <li>○通級指導教室（授業参観等）</li> </ul>                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>★引き継ぎ資料の整理、確認</li> <li>★通常の学級担任と通級による指導担当者が情報交換する場の調整（通級結果の確認等）</li> <li>◎直接、場を設定することが難しい場合は、情報交換の機運し役</li> <li>★個別の指導計画等作成における相談や助言</li> <li>★必要に応じて、関係機関との連携依頼</li> <li>★特別支援学校のセンター的機能の活用</li> </ul>   |
|                         | <p>●第1回情報交換会実施</p> <p>※ 連絡票（ピンクの欄）まで入力</p>  | <p>対象児童生徒の実態把握・目標の設定・目標及び配慮の共有</p>   |  |  |
| 実践・見直し期<br>5月<br>8月     | <ul style="list-style-type: none"> <li>●通級による指導の授業実践</li> <li>●夏季休業中までの評価</li> <li>●個別の指導計画の見直し</li> <li>●個別の教育支援計画の見直し</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○個別の指導計画を基に授業実践</li> <li>○通常の学級担任に、具体的な手だてや対象児童生徒の様子を伝達</li> <li>○通常の学級における様子を確認</li> <li>○保護者に具体的な手だてや対象児童生徒の姿を伝達（通級での効果）</li> <li>○通常の学級での状態も踏まえ、通級による指導の目標や手だて等の見直し、改善</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○通級による指導の効果を確認</li> <li>○通級による指導担当者への情報提供</li> <li>○保護者に具体的な手だてや対象児童生徒の姿を伝達（通常での配慮と通級による指導の効果）</li> <li>○家庭での様子を確認</li> <li>○通級による指導での姿を踏まえ、通常の学級における目標や配慮等の見直し、改善</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>★通常の学級担任と通級による指導担当者が情報交換する場の調整（通級結果の確認等）</li> <li>★通級による授業内容の確認</li> <li>★対象児童生徒の姿確認</li> <li>★通級担任と通常の学級担任との情報交換をする機運し役</li> <li>★必要に応じて、保護者に対象児童生徒の様子を伝達</li> <li>★個別の指導計画等を見直しや改善するときの相談や助言</li> <li>★必要に応じて、関係機関との連携依頼</li> <li>★特別支援学校のセンター的機能の活用</li> </ul> |
|                         | <p>●第2回情報交換会実施</p> <p>※ 連絡票（イエローの欄）まで入力</p>   | <p>対象児童生徒の目標、指導内容、手だて等の見直し、改善</p>  |  |  |
| 実践充実期<br>9月<br>2月       | <ul style="list-style-type: none"> <li>●通級による指導の授業実践</li> <li>●目標に対する評価</li> </ul> <p>※保護者へ情報提供する際には、個別の教育支援計画や個別の指導計画を提示する。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○個別の指導計画を基に授業実践</li> <li>○通常の学級担任に、具体的な手だてや対象児童生徒の様子を伝達</li> <li>○通常の学級における様子を確認</li> <li>○保護者に具体的な手だてや対象児童生徒の姿を伝達（通級による効果）</li> <li>○通常の学級での状態も踏まえ、通級による指導の目標や手だて等の見直し、改善</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○通級による指導の効果を確認</li> <li>○通級による指導担当者への情報提供</li> <li>○保護者に具体的な手だてや対象児童生徒の姿を伝達（通常での配慮と通級による指導の効果）</li> <li>○家庭での様子を確認</li> <li>○通級による指導での姿を踏まえ、通常の学級における目標や配慮等の見直し、改善</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>★必要に応じて、通常の学級担任と通級による指導担当者が情報交換する場の調整（通級結果の確認等）</li> <li>★通級による指導での授業内容の確認</li> <li>★対象児童生徒の姿確認</li> <li>★通級担任と通常の学級担任との情報交換をする機運し役</li> <li>★授業内容や手だて等に関する相談や助言</li> <li>★必要に応じて、関係機関との連携依頼</li> <li>★特別支援学校のセンター的機能の活用</li> </ul>                               |
|                         | <p>●第3回情報交換会実施</p> <p>※ 連絡票（ブルーの欄）まで入力</p>  | <p>指導すべき課題の改善や克服に向けた授業実践</p>   |  |  |
| 引き継ぎ期<br>2月<br>3月       | <ul style="list-style-type: none"> <li>●年間の評価</li> <li>●次年度の通級による指導の利用についての検討</li> <li>●次年度に向けての計画作成</li> <li>●次年度に向けて保護者説明</li> </ul> <p>※対象児童生徒や保護者のニーズも踏まえて、引き継ぎをする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○通級指導教室における行動観察</li> <li>○通常の学級の授業参観</li> <li>○通常の学級担任からの情報収集</li> <li>○対象児童生徒、保護者との面談</li> <li>○今年度の対象児童生徒の姿を確認して、次年度に向けての目標や指導内容等の検討</li> </ul>                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>○通級による指導の効果を確認</li> <li>○通級による指導担当者への情報提供</li> <li>○通級指導教室における対象児童生徒の行動観察（授業参観等）</li> <li>○対象児童生徒、保護者との面談</li> <li>○今年度の対象児童生徒の姿を確認して、次年度に向けての目標や配慮等の検討</li> </ul>            | <ul style="list-style-type: none"> <li>★通常の学級担任と通級による指導担当者が情報交換する場の調整（通級結果の確認等）</li> <li>◎直接、場を設定することが難しい場合は、情報交換の機運し役</li> <li>★年間の評価や次年度に向けて、課題設定するときの相談や助言</li> <li>★必要に応じて、関係機関との連携依頼</li> <li>★特別支援学校のセンター的機能の活用</li> </ul>   |
|                         | <p>●第3回情報交換会実施</p> <p>※ 連絡票（ブルーの欄）まで入力</p>  | <p>年間の評価に基づいて、次年度への引き継ぎ</p> <p>次年度への引き継ぎ資料作成、保護者及び本人への説明</p>   |  |  |

## 【資料9 情報交換会の内容・方法シート】

|   |  |
|---|--|
| <p style="text-align: center;"><b>第1回情報交換会（5月下旬～6月上旬）</b></p> <p style="text-align: center;">※情報交換会3日前までに、連絡票の第1回分まで入力する。</p> <p style="text-align: center;"><b>【 情報交換会の内容 】</b> ※連絡票のピンク欄を中心に</p> <p>○通常の学級における対象児童生徒の困っていることを中心とした実態把握<br/>(生活面・学習面・友達との関わり・困っている背景等)<br/>Check: 対象児童生徒の困っていることになっているか?</p> <p>○通常の学級における対象児童生徒の困っていることに対する目標設定<br/>(短期目標(重点目標)・長期目標等)<br/>Check: 実態に即した目標となっているか?</p> <p>○通常の学級における困難の改善・克服を目的とした指導内容及び具体的な手だて(4～7月)<br/>(目標と指導内容の整合性・手だて・通常の学級における配慮等)<br/>Check: 通常の学級における対象児童生徒の課題を改善・克服するための指導内容となっているか?</p>   | <p style="text-align: center;"><b>第3回情報交換会（2月中旬～3月）</b></p> <p style="text-align: center;">※情報交換会3日前までに、連絡票の第2回分の追加・修正及び第3回分まで入力する。</p> <p style="text-align: center;"><b>【 情報交換会の内容 】</b> ※連絡票のブルー欄を中心に</p> <p>○通級による指導の実態(9～3月)<br/>(具体的な指導内容・手だて・対象児童生徒の様子や変容等)<br/>Check: 通常の学級における対象児童生徒の課題の改善・克服を観点としてまとめられているか?</p> <p>○通常の学級における様子(9～3月)<br/>(対象児童生徒の様子や変容・通常の学級における配慮等)<br/>Check: 通常の学級における対象児童生徒の課題の改善・克服を観点としてまとめられているか?</p> <p>○次年度への引き継ぎ<br/>(通級における指導の必要性・指導すべき課題・通常の学級における配慮等)<br/>Check: 通常の学級における対象児童生徒の変容や今後の課題を踏まえた次年度以降の通級による指導の在り方についてまとめられているか?</p> |
| <p style="text-align: center;"><b>第2回情報交換会（8月中旬～9月）</b></p> <p style="text-align: center;">※情報交換会3日前までに、連絡票の第1回分の追加・修正及び第2回分まで入力する。</p> <p style="text-align: center;"><b>【 情報交換会の内容 】</b> ※連絡票のイエロー欄を中心に</p> <p>○第1回情報交換会で共通理解したことの見直し・改善(連絡票のピンク欄の確認)<br/>(困っている背景・指導すべき目標や指導内容、手だて・通常の学級における配慮等)<br/>Check: 見直しや改善した理由は何であるか?</p> <p>○通級による指導の実態(4～7月)<br/>(具体的な指導内容・手だて・対象児童生徒の様子や変容等)<br/>Check: 通常の学級における対象児童生徒の課題の改善・克服を観点としてまとめられているか?</p> <p>○通常の学級における様子(4～7月)<br/>(対象児童生徒の様子や変容・通常の学級における配慮等)<br/>Check: 通常の学級における対象児童生徒の課題の改善・克服を観点としてまとめられているか?</p> <p>○通常の学級における困難の改善・克服を目的とした指導内容及び具体的な手だて(9～3月)<br/>(目標と指導内容の整合性・手だて・通常の学級における配慮等)<br/>Check: 通常の学級における対象児童生徒の課題を改善・克服するための指導内容となっているか?</p> |  |
| <p style="text-align: center;"><b>【 情報交換会の方法（特別支援教育コーディネーターの役割）】</b></p> <p>◇通級による指導担当者や通常の学級担任との日程を調整して、年間3回の情報交換会を開催する。<br/>難しい場合は、メールやオンライン会議を活用したり、特別支援教育コーディネーターが橋渡ししたりして情報交換を行う。</p> <p>○情報交換会前までに、入力された連絡票を確認する。(校内サーバー等の活用)</p> <p>○司会、運営を行う。</p> <p>○必要に応じて、関係機関等に連絡をして情報交換会の参加を依頼する。</p>  |  |

## 【資料10 連絡票】

### (イ) 連絡票（資料10）

対象児童生徒の実態や目標、具体的な支援方法や指導の効果などを記載した資料は大変多く、形式もさまざまである。そのため、実際に情報共有や情報交換を実施するときに、内容が焦点化しにくくなるを考える。そこで、対象児童生徒の実態把握や目標、通級による指導内容とその効果、通常の学級での様子、教室で行っている配慮などについての情報が一目で分かるように1枚のシートにまとめた「連絡票」を作成した。この連絡票は、1年間の学びの連続性やPDCAサイクルを意識した形式で、定期的に対象児童の指導・支援の方法を見直したり、次年度への引き継ぎが適切に行ったりできるように工夫した。

令和3・4年度の各小・中学校での実践では、情報交換会で話し合った内容を生かして修正を加えたり、各校の実情に応じて連絡票を工夫したりしながら実践を行った。連絡票を用いて情報交換会を行い、対象児童生徒の実態を把握する一助となった。

|                                   |                                  | 年 組 氏 名                                 |  |  |  |  |
|-----------------------------------|----------------------------------|---|--|--|--|--|
| 対象児童生徒のニーズ(目標としていること、困っていること)     |                                  | 150文字以内                                 |  |  |  |  |
| 第1回情報交換会までに通常の学級担任で入力             |                                  | ※個別の教育支援計画の目標を参考に                       |  |  |  |  |
| 保護者のニーズ(目標としていること、困っていること)        |                                  | 150文字以内                                 |  |  |  |  |
| 第1回情報交換会までに通常の学級担任で入力             |                                  | ※個別の教育支援計画の目標を参考に                       |  |  |  |  |
| 対象児童生徒が困っていることの原因として考えられること       |                                  | 150文字以内                                 |  |  |  |  |
| 第1回情報交換会までに通常の学級担任及び通級による指導担当者で入力 |                                  | ※自立活動の指導内容(6区分27項目)を参考に                 |  |  |  |  |
| 通常の学級での目標                         |                                  | 100文字以内                                 |  |  |  |  |
| 第1回情報交換会までに通常の学級担任で入力             |                                  |   |  |  |  |  |
| 通常の学級における配慮事項(合理的配慮)              |                                  | 150文字以内                                 |  |  |  |  |
| 第1回情報交換会までに通常の学級担任で入力             |                                  | ※個別の教育支援計画の目標を参考に                       |  |  |  |  |
| 通級による指導での重点目標                     |                                  | 150文字以内                                 |  |  |  |  |
| 第1回情報交換会までに通級による指導による指導担当者で入力     |                                  |   |  |  |  |  |
| ※自立活動の指導内容(6区分27項目)を参考に、具体的な目標を設定 |                                  |   |  |  |  |  |
| 通級による指導 指導内容(9～7月)                | 手だて                              | 児童生徒の様子(目標に対する評価)                       |  |  |  |  |
| 第1回情報交換会までに通級による指導担当者で入力(80文字以内)  | 第1回情報交換会までに通級による指導担当者で入力(80文字以内) | 5 4 3 2 1                               |  |  |  |  |
| ※個別の指導計画の内容                       | ※通常の学級における配慮につながるように意識           | 第2回情報交換会までに通級による指導担当者で入力(80文字以内)        |  |  |  |  |
| ※目標を達成するために選択した指導内容               |                                  | ※特記事項を記入(指導につなげるための評価)                  |  |  |  |  |
| 第2回情報交換会までに通級による指導担当者で入力(80文字以内)  | 第2回情報交換会までに通級による指導担当者で入力(80文字以内) | 5 4 3 2 1                               |  |  |  |  |
| ※個別の指導計画の内容                       | ※通常の学級における配慮につながるように意識           | 第2回情報交換会までに通級による指導担当者で入力(80文字以内)        |  |  |  |  |
| ※目標を達成するために選択した指導内容               |                                  | ※特記事項を記入(指導につなげるための評価)                  |  |  |  |  |
| 通常の学級における配慮及び変容(4～7月)             |                                  | 150文字以内                                 |  |  |  |  |
| 第2回情報交換会までに通常の学級担任で入力             |                                  | ※対象児童生徒や保護者のニーズ、通常の学級における目標に関することとまとめる  |  |  |  |  |
| 通級による指導 指導内容(9～3月)                | 手だて                              | 児童生徒の様子(目標に対する評価)                       |  |  |  |  |
| 第2回情報交換会までに通級による指導担当者で入力          | 第2回情報交換会までに通級による指導担当者で入力         | 5 4 3 2 1                               |  |  |  |  |
| ※個別の指導計画の内容                       | ※通常の学級における配慮につながるように意識           | 第3回情報交換会までに通級による指導担当者で入力                |  |  |  |  |
| ※目標を達成するために選択した指導内容               |                                  | ※特記事項を記入(指導につなげるための評価)                  |  |  |  |  |
| 第2回情報交換会までに通級による指導担当者で入力          | 第2回情報交換会までに通級による指導担当者で入力         | 5 4 3 2 1                               |  |  |  |  |
| ※個別の指導計画の内容                       | ※通常の学級における配慮につながるように意識           | 第3回情報交換会までに通級による指導担当者で入力                |  |  |  |  |
| ※目標を達成するために選択した指導内容               |                                  | ※特記事項を記入(指導につなげるための評価)                  |  |  |  |  |
| 通常の学級における変容(9～3月)及び次年度への引き継ぎ内容    |                                  | 150文字以内                                 |  |  |  |  |
| 第3回情報交換会までに通常の学級担任で入力             |                                  | ※対象児童生徒や保護者のニーズ、通常の学級における目標に関することとまとめる。 |  |  |  |  |

### (3) 各小・中学校の実践

各校の実情に合わせて、工夫しながら実践及び検証を行った。

#### ア 扶桑町立山名小学校での実践（通級による指導の形態：巡回による指導）

校内の年間予定表の保護者会の前に情報交換会を位置付けたことで、対象児童の変容や今後の課題・支援方法を保護者に伝えることができ、保護者と共通理解を図ることができた。また、特別支援教育校内委員会と連携を図ることで、対象児童の目標や支援方法を共有して学校全体で情報共有することができた。連絡票を作成する際には、既存の資料をリンクさせることで、作成にかかる業務の効率化につなげることができた。

#### イ みよし市立三好丘小学校での実践（通級による指導の形態：自校での指導）

情報交換会を学年ごとに実施したことで、学年の教師で情報共有し、共通理解できる機会が増加した。また、対象児童についてイメージをもつことができ、よりよい手だてを考えることにつなげることができた。対象児童の人数が多いこともあり、内容を精選した連絡票と個別の教育支援計画を活用して情報交換会を実施したことで、連絡票の作成にかかる負担を一部軽減することができた。

#### ウ 知多市立八幡中学校での実践（通級による指導の形態：自校での指導）

情報交換会を学年会の中で位置付け、関係のある教師全員で話し合いながら支援方法を考えたことで、学級担任が自信をもって対象生徒に対して指導できるようになった。また、学年全体で一貫した支援を行うことができた。そして、連絡票に情報交換会での話し合った内容を記述する欄を加えたことで、情報交換会に出席していない教師とも対象生徒について情報共有をすることができた。

### (4) 特別支援学校との連携

連絡票の作成や情報交換会において対象児童生徒への実態把握や適切な支援について話し合っていくために、特別支援学校のセンター的機能を活用した。特別支援学校の教師は、情報交換会の前に通級による指導の対象児童生徒の様子を参観し、情報交換会へ参加した。連絡票に記入された児童生徒の目標や指導内容、手だてと照らし合わせながら、対象児童生徒の学級や通級による指導での様子を参観した。その後の情報交換会では、対象児童生徒の特性の背景や通常目標を踏まえた具体的な支援方法、通級による指導の目標設定、指導内容などについて、特別支援学校の教師が高い専門性を生かした助言を行った。助言は、特性の背景や目標設定が的確に示されるとともに、通級による指導や、通常の学級ですぐに実践できる具体的な指導や支援の方法が多くあった。各立場の教師が日頃の指導や支援について振り返ることができ、すぐに対象児童生徒への指導や支援に生かすことができた。

## 5 研究のまとめと今後の課題

### (1) 研究のまとめ

本研究では、次のような成果を得ることができた。

まず、年間スケジュールモデルを基に情報交換会を各校の年間計画に位置付けることで、各校の実情に合わせた連携のシステムの構築につなげることができた。

次に、連絡票を活用することで、話し合う内容を焦点化することができ、PDCAサイクルを意識した、質の高い情報共有や情報交換につなげることができた。

また、特別支援学校と連携を図ることで、具体的な検討をすることができた。さらに、多様化する児童生徒に対して適切な指導や支援の方法などについて、より専門的な助言を受けることができた。

最後に、情報交換会での話し合いの様子やその後の目標や手だてを共通理解した支援から、多くの教師で対象児童生徒を支援していこうとする意識を高めることができた。

## (2) 今後の課題

本研究を通して、以下のような課題が明らかになった。

「連絡票」を作成したことで、PDCAサイクルを意識して対象児童生徒の指導・支援に活かしてポイントを絞った情報共有ができたが、連絡票の作成のためにさらに時間かかることが課題としてあげられた。また、複数の教師による情報交換の場を設定することで、校内体制として児童生徒を支援していく体制を整えることができたが、話し合いの時間がどうしても長くなってしまった。そこで、今後は、情報交換会で取り上げる内容を焦点化し、より効率的・効果的な情報交換の場の設定と連絡票の様式を工夫していく必要があると考える。

## 6 おわりに

特別支援教育への理解が高まっている現状を踏まえ、今後も特別な支援が必要な児童生徒に対し、実態把握や目標、支援する内容などについての情報共有及び情報交換をする場を校内体制として設定し、対象児童生徒を支援・指導していく必要があると考える。また、複数の教師が対象児童生徒についての共通理解やその内容について協議をしていく上で、障害の特性への理解や一人一人の課題に応じた支援・指導方法などについての特別支援教育に関する専門性の向上を更に図ることが大切であると考え。今後も実践を継続し、通級による指導を含めた特別支援教育の充実に向けて研究を進めていきたい。

## 参考文献

- ・文部科学省「障害者活躍推進プラン」平成31年1月
- ・文部科学省「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議報告」令和3年1月
- ・文部科学省「通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援の在り方に関する検討会議(第4回)」令和4年10月
- ・文部科学省「初めて通級による指導を担当する教師のためのガイド」令和2年3月
- ・文部科学省(編著)「障害に応じた通級による指導の手引 解説とQ&A(改訂第3版)」海文堂出版、平成30年8月
- ・愛知県・愛知県教育委員会「第2期愛知県特別支援教育推進計画(愛知・つながりプラン2023)」平成30年12月
- ・独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「特別支援教育における教育課程に関する総合的研究ー通常の学級と通級による指導の学びの連続性に焦点を当ててー」(平成28年度～平成29年度基幹研究)
- ・愛知県「発達障害等支援拠点校研究」(平成25年度～平成30年度)
- ・全国特別支援学級・通級指導教室設置学校長協会(編著)田中 裕一(監修)新版「特別支援学級」と「通級による指導」ハンドブック、東洋館出版社、令和元年8月